

九州から日本を動かす

九州経済連合会会長

麻生 泰

あそ ちたか



危機感なきジリ貧

世界における日本の経済的地位、存在感が下がっている。1990年には世界の総生産の13・4%を占めていたのが、2019年には5・8%まで落ちた。政府の債務残高114兆円は、GDPの2倍以上となっている。コミュニケーション能力はアジアの国々の若者よりも劣り、その順位はOECD加盟36カ国中最下位である。

菅内閣のもと、改革強化で競争力を取り戻すという強い方向性が打ち出され、実行が始まっている。コロナ禍により教育現場や医療現場でも大きな変化が始まろうとしている。

経済界の我々がすべきは、これらの改善が進むように良き提案と実行力によって、「こうすることで勢いがかかりますよ。日本の競争力を取り戻せますよ。日本人特有の改善力による向上で日本にとっても将来の競争力、貢献度向上に繋がりますよ」という実績を出し、

仲間を作り、ワンチームとなって現在のジリ貧状態を脱することである。

九州は恵み、チャンスが多いだけに、数字・金額・明るい流れを作り出していく使命と責任があると思う。意欲ある企業、法人、地域として成功事例を作ってそれを全国に伝え、九州から日本に元氣を取り戻していく。

これが「九州から日本を動かす」という九州経済連合会のミッションである。

九州から日本を動かす

九経連としてまず取り組んでいるのは、農林水産物の輸出強化である。

上質の品物があり、しかも日本産というブランドは先輩達のおかげで海外に浸透している。残るは「売る力」を付けることである。行き詰まる国内市場に固執せずにアジアへの輸出市場開拓に動き、生産者の収入増という流れを作り出す。中国輸出の突破口づくりは今がチャンスと捉えている。

一次産業の魅力を大きく向上させるもう1つの課題が、日々の労働量の軽減である。ドローンやAIなどの最新技術を肥料や消毒薬の散布に応用し、コストダウンや高付加価値の成果を出している。これらの取り組みを通して、若者が地方にもっと魅力を感じて戻ってくる可能性も出てくると思う。

九州とアジアとの結び付きは強く、その旺盛な活力を取り込むチャンスに恵まれている。2020年11月、ハノイの日本大使館近くの一等地に「九州プロモーションセンター」を開設した。ベトナム外務省の建物2棟を借り受け、九州の自治体・企業などが入居し、オール九州のシンボルタワーとなる。

ベトナムは、人口が約9600万人に対して20代以下の若者の比率は46%と非常に高く、これからの人口増とともに1人当たりの所得の伸びが大いに期待出来る。ベトナムを拠点としてのアジア地区への展開は、これから間違いなく伸び続けるアジアへの大事な足場と



九州プロモーションセンター (外観)



九州プロモーションセンター (内部)

なり、このPRセンターは大いに効果を発揮すると確信している。

九州地域戦略会議という会合は年に2回開催され、そこでは民間の経済4団体の長と、九州、沖縄、そして山口県の知事9人が一堂に集まり、九州独自の発展戦略や魅力づくり、行動プランについて話し合っている。

2020年10月の第38回会合では、自転車・国際ロードレースイベント「ツール・ド・九州・山口(仮称)」の2023年度開催を目指すことで合意した。九州はまさに自然の宝庫である。アフターコロナの観光、自然志向への対応、スポーツツーリズムの強化策として開催準備を進め、インバウンド復活への機運を盛り上げていきたいと思う。

国際金融機能の誘致も大きな機会である。香港の機能が揺れる中、投資マネーや外国金

融企業、人材の受け皿づくりへの動きを進めている。

首都圏への集中・過密は、感染症のみならず、地震などの災害リスクも抱える。ビジネスが停滞しないよう、拠点を分散化させることが大事である。

また九州のクリーンエネルギーの比率は58%で国内で断トツである。世界で主流のESG投資、環境金融を呼び込むためにも、九州のエネルギー資源は大きな強みである。日本のブランド力、コンパクトシティ福岡の良さ、クリーンエネルギーなどを発信し、次世代の

街づくりに貢献していきたいと思う。

日本のこれから、地方の底力

今回の事態は、地方にアドバンテージを与えた。感染リスクが低く、ITを活用すればどこでも仕事が出来て、暮らしやすい。それに何といっても生活コストが安く、ストレスが低い。アドバンテージをもっと明確にするため、それぞれの地域がどう魅力を高めるか、勝負の時である。

地方が魅力あるビジョンや可能性を示して動き出し、そしてその動きに具体的な数字の伸びが伴ってくると、もっと次世代が地元へ帰ってくるはずである。次世代が戻れば、我々では思いつかない、新しい発想ややり方が生まれる。地元行政や企業が若者を引き付ける実績、魅力、そして尖ったプロジェクトを作っていくことが大事だと思う。

2021年、九経連は創立60周年を迎える。「九州将来ビジョン」を取りまとめ、アフターコロナのパラダイムシフト、心の豊かさを成長に繋ぐ「幸せコミュニティづくりへの具体的な行動と実績を示していきたい。

地方都市においても、ヤル気があり、明確な勝ち組へのビジョンがある首長のもとでは明るさやチャンスが広がっている。

九経連は「九州から日本を動かす」を使命とし、次世代が明るい可能性を感じる地方創生モデルを九州から形成し、日本の競争力復活へ貢献していく。